龍蔵寺 寺報（令和五年）冬号　年末年始のご案内

年末年始のご挨拶

向寒の候、檀信徒の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年の冬の寺報でも、ウクライナ戦争の終結を願いましたが、現実は終結するどころかイスラエルでの紛争も加わり、世はますます混沌としています。

戦争は自我と自我のぶつかり合いです。私の土地、私の民、私の歴史、私の宗教、そういった自我が争いを生みます。自我を強調する言説や行動はすべからく戦争の助行となります。自我の反対は無我であり無私の行いです。

仏教の根本行である六波羅蜜の一つに「忍辱」があります。これはいかなる侮辱や迫害にも怒りを起こさず耐えることです。究極的には命が危険にさらされても、相手を哀れみ非暴力を貫くよう教えます。もちろんこれを実社会で実践するのが困難であることは理解できます。家族が殺されそうになれば、武器を手に取るのはやむを得ないでしょう。しかし仏教的な視点から見れば、このような場合でさえ悪であり、避けるべき罪であり、慚愧すべきことなのです。

戦場にて千人の敵に千度勝つものよりも
ただ一人の敵、自己、に勝つものが
実に最上の勇士である。

（法句教）

新年が皆様にとってより良きものとなるよう、心よりお祈り申し上げます。

餅つきと除夜の鐘

正月準備の餅つきは、十二月二十九日の十時から行います。お時間ありましたらぜひお立ち寄りください。除夜の鐘は十二月三十一日の二十三時開始です。

12月29日10時から、お手伝いは9時から

除夜の鐘を撞きに来寺された方には、干支みくじを差し上げています。来年の干支の龍の人形の中に、おみくじが入っています。除夜の鐘は０時ちょうどに百八撞となるように始めて終わります。

境内の整備計画とご報告

檀信徒の皆さまのお声をお聞きし、境内の改善に取り組んでいます。施主としてご寄進されたい方は寺務所までお申し出ください。長寿の報恩、感謝、回忌法要の記念に。それぞれに記銘し、三〇万円以上のご寄進は本堂の木札にもお名前を記し、末永く顕彰させていただきます。

本堂の下駄箱とすのこ

夏の寺報で本堂の正面の階段に手すりを付けたとご報告しましたが、続けて下駄箱と簀の子も新調しました。古い階段は急で、下足して登るにも体を回すスペースがありませんでしたが、これで登るのが少しでも楽になればと思います。

ご本尊様 修復報告会を開催

さる令和五年十月十四日に、ご本尊様修復の監修を頂いた林宏一先生（岩槻人形博物館元館長）と岩佐光晴先生（成城大学教授）を講師に、報告会を開催いたしました。新たに分かった舞木氏のこと、また利根川周辺に活発な文化的宗教的な交流があったことが紹介され、龍蔵寺のご本尊様もその流れの中で当山に奉られているのではないかとのことでした。

お寺でワークショップ

八月五日には、お寺でワークショップ『匂い袋』を開催しました。浅草から講師をお招きして、様々な香木や香料を好みに合わせて調合し、カバンやタンスで使えるオリジナルの匂い袋をみんなで作りました。

古佛眼山　龍蔵寺
電　話：〒三四七－〇〇六八
寺務所：埼玉県加須市大門町一八－五一
電　話：午前九時～午後四時
Ｆａｘ：〇四八〇－六一－〇八五〇
会　館：〇四八〇－六二－七九〇〇
メール：〇四八〇－六一－〇八九二
Ｗｅｂ：info@ryuzoji.jp
www.ryuzoji.jp

※ホームページのブログを再録したものです

お寺とアジサイ

アジサイ寺と呼ばれるお寺が全国にあります。龍蔵寺でも六月になると境内でアジサイが咲きほこります。いつ頃からアジサイが植えられ始めたのかは定かではありませんが、少し空いた場所があればせっせとアジサイの苗を植えて増やしています。アジサイの花言葉は、移り気、そこから転じて浮気という、ちょっと不名誉な言葉があてられています。土壌がアルカリ性か酸性かで花の色が変わる性質が、移り気とされたのだと思いますが、どのような環境でもしっかり花を咲かせるアジサイは、むしろしぶとく立派だと思います。

禅宗の修行僧を雲水と呼びます。流れる雲や水のように、一所にとどまらず、しなやかに変化し執着しない。その様子に仏道の理想を見たわけです。アジサイは、赤でなければならない、青く咲かなければならないというようなこだわりがない、雲水のような花だと思います。

お寺にアジサイが多いのも、そのような姿がむしろ好まれたからではないかと思います。

（令和五年六月四日）

刹那

諸行無常は、常に変化し続けるこの世の中の真理を、お釈迦様なりに表現した言葉です。お釈迦様は、この真理を理解せず、変化しないことに期待するところに苦しみが生じるとしました。

その最たるものが人間の生であり死です。生き続けたい、年を取りたくない、死にたくない。いずれも実現不可能な願望なのですが、それでも人は願わずにおれません。しかし人もまた無常であるが故に、自らが変わることで苦しみから脱することができる。他が変わることに期待せず、願わず、自分が変わる、成長する。そのことを目指すのが仏教の生き方であり、修行ということになります。

仏教の修行では、自分でどうすることもできない未来や過去は重要視しません。今を精一杯生きる方法を考えます。今を精一杯生きるために今をじっくり観察します。それを瞑想と呼びます。じっくり観察して可能な限り細分化していく。どこまでも細分化してついにこれ以上できなくなった時間の長さ、それは意識の移ろいそのものであるわけですが、この短い時間をお釈迦様は「刹那」と呼びました。この一刹那さえ無駄にせず、精一杯生きようとするのが仏教の修行です。

現代では「刹那的に生きる」というと、その場しのぎの投げやりな生き方のように使われますが、本当の意味は決してそうではなく、過去や未来に捕らわれず、一瞬一瞬を真剣に生きるということなのです。

（令和五年九月三日）

心痛と心配

将来が心配だ、体の調子が心配だ、感染症が心配だ、とこの世は心配事だらけです。ですがこれらは本来心配とは言わず、正しくは心痛と言うのだそうです。

心配とは字のごとく心を配ること、心を与えることです。苦しみや困難を抱える人に対し、湧き起こる慈悲の心を砕いて分け与えることです。なので心配はどんどんした方がよい。心配は誰にでもできる施しでもあるわけです。一方、あれやこれやと自分事で悩む心痛は、こちらも字のごとく心を痛めつけることです。心を弱らせる心痛は「苦」以外の何者でもありません。苦の原因を深く探り、どのようにすればその心痛から逃れる事ができるのかを考え、必要以上に心痛とならぬようにすべきです。

（令和五年十一月八日）

宝樹苑の進捗

夏の寺報で報告しました庭園型の個人墓・二人墓の工事は、やや遅れてはおりますが、年内には完成予定です。新年には開苑致しますので、改めてご案内させて頂きます。

宝樹苑は、永代供養付きの庭園墓です。個人墓と二人墓があり、二人墓の片方は長年共に過ごしたペットの納骨も可能です。三十年間のお墓でのご供養の後は、永代供養として合葬し土に還します。ご利用される方は、龍蔵寺の檀信徒として、年二千円の会費をお納め頂きますが、先納も可能です。三十年が経った以降もそのままにされたい方は、会費を引き続き納めることで延長できます。仏教徒であれば宗派は問いませんが、浄土宗式でのご供養となります。生前のご予約でも、手元供養中の納骨先としてもご利用できます。また、龍蔵寺で葬儀や法事も執り行います。ご関心ある方にご紹介頂けるとありがたいです。

個人墓は四十万円、二人墓は六十万円です。蓋となる墓石代、字彫り代がグレードや文字数により別に八万円～二十万円程度かかります。

骨壺が水に浸らないよう、全体に上げています。

お寺からのお知らせ

お念仏の会　テンプルモーニング

毎月第一日曜日、朝の七時からお念仏とお掃除の会を開いています。月初めの朝を心清らかに始めませんか。令和六年の予定は次の通りです。

一月七日（日）、二月四日（日）
三月三日（日）、四月七日（日）
五月五日(日)
六月二日（日）
七月七日（日　十四時　新盆法要）
八月四日（日）、九月一日（日）
十月六日（日）、十一月三日（日）
十二月一日（日）

行事・法要

一月一日　元日会（十時）
三月十七日～二十三日　春のお彼岸
五月八日　誕仏会（はなまつり）
七月七日　新盆法要・盆施餓鬼木札開眼法要（十四時）
八月一日～九月十五日　施餓鬼供養受付
九月二十二日　施餓鬼法要（十四時）
九月十九日～二十五日　秋のお彼岸
十二月二十九日　餅つき
十二月三十一日　除夜会（十一時）

新規墓地のお求め

境内の整理で新しく造成した墓地を、ご希望の檀信徒・ご親戚にお分けしています。志三十万円から。

納骨堂（二十三夜堂）のご利用

境内にある二十三夜堂を納骨堂としてご利用いただけます。現在檀信徒でない方も、ご利用いただけます。詳しくはHPをご覧ください。一柱十万円。

龍蔵寺ホームページ　ryuzoji.jp

本寺報、法事のお申込用紙、連絡先の追加登録用紙など、ホームページからもダウンロードできます。

写経・散華のご奉納の受付

本堂・ご自宅での写経を随時受け付けています。またご先祖様の菩提・家内繁栄を祈願して　倶会堂散華の祈願奉納をおすすめしています。お申し込みは寺務所にお立ち寄りください。